姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第 51 集

豆田遺跡発掘調査報告書

調査区全景（北東から）

２０１７

姫路市教育委員会

例言

1. 本書は、姫路市町坪に所在する豆田遺跡（県遺跡番号 020576）の発掘調査報告書である。
2. 掘調査は、姫路市町坪 451 他における店舗建設工事に伴い、事業者と委託契約を締結し、姫路市教育委員会が実施した。現地調査及び整理作業、報告書作成は、姫路市教育委員会生涯学習部埋蔵文化財センターが行った。
3. 発掘調査は、平成 28 年 7 月 20 日から同年 7 月 27 日にかけて実施した。調査面積は 80 ㎡である。
4. 本報告にかかわる調査の記録、出土遺物などは、すべて姫路市埋蔵文化財センターで保管している。

凡例

1. 発掘調査に伴う測量は、世界測地系（測地成果 2000）に準拠する平面図直角座標系第Ⅴ系を基準とし、数値はm単位で表示している。
2. 本書で用いる標高は、東京湾平均海面（T.P.）を基準とし、使用する方位は世界測地系の座標北である。
3. 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図（姫路北部）および姫路市基本地形図を使用した。
4. 土層の色調については、小山正忠・竹原秀雄編 2003『新版　標準土色帳　25 版』日本色研事業株式会社に準拠した。

1. 調査に至る経緯

姫路市町坪 451 他において店舗の建設が計画された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である豆田遺跡（県遺跡番号 020576、図 2）に該当するため、事業の実施にあたり事業者より文化財保護法第 93 条の届出があり、姫路市教育委員会生涯学習部文化財課において遺跡の取り扱いについての協議が行われた。当該地周辺では、中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業や民間開発事業にともない、これまで 17 年にわたる発掘調査が実施されている。今回は、当初計画に基づいて確認調査（遺跡調査番号 20140092）を実施し、8 箇所すべての調査区で地山が良好に残存していることを確認した。また、当該地中央付近に設定した調査区では、中世の掘立柱建物を構成すると思われるピットを検出した。その後、兵庫県教育委員会からの発掘調査の通知に基づいて、工事の掘削により遺跡に影響を及ぼす建物基礎および地中梁部分を本発掘調査の対象とした。調査面積は 80 ㎡である。調査に際しては、姫路市と事業者で委託契約を締結し、姫路市埋蔵文化財センターが現地の調査や整理作業等を実施した。現地調査は平成 28 年 7 月 20 日に着手し、7 月 27 日に完了した。調査終了後は出土品等の整理作業を行い、本書の刊行をもって本事業を完了した。

2. 調査の位置と周辺の歴史的環境

豆田遺跡は、姫路平野の中央付近、苫編山や金亀山の南東側に位置し、その東側を南流する水尾川と大井川の間の沖積地に立地する。遺跡の周辺一帯では現在でも条里地割が比較的良好に残っている。今回の調査区の南側で平成 13 年度に実施した調査では、飾磨郡条里地割（N-22°-E）に平行する東西・南北方向の溝とともに数棟の掘立柱建物や土坑を確認している。溝の中からは鞴の羽口や鉱滓といった鍛冶関連の遺物も出土した（姫路市教育委員会文化部文化課編 2003）。出土した遺物からこれらの遺構は12世紀代のものと考えられる。また、当該調査区の東側の平成26年度の調査区では、「寺前水路」の東側の肩や 4 棟の掘立柱建物、石組みの井戸を確認している。掘立柱建物の主軸については、先述の条里地割に平行するもの 1 棟、やや西に振るものが 3 棟ある。なお、遺物はほとんど出土しておらず、石組みの井戸から 15 世紀代の備前焼擂鉢が出土したにとどまる（姫路市埋蔵文化財センター編 2015）。

3. 調査の成果

調査地の現況は畑地で、標高は約 6m である。基本土層は、盛土を 1 層、旧耕土を 2 層、土壌化層を 3 層とし、その下の地山であるオリーブ黒色(5Y3/1)粘土層を 4 層とした（図 5 左下）。地山のレベルは標高 5.7m 前後を測り、比較的安定している。今回の調査では掘立柱建物（SB1）や柱列（SA1・2）を構成するピット 10 基と地形の落ち込みを検出した。

掘立柱建物（SB1）は調査区北辺中央付近で検出した。ピットは径約 50 ㎝、検出面からの深さ約 60 ㎝を測る。いずれも径約 30 ㎝の柱根が残存していた。この建物の主軸は座標北から 22° 東に振れる。遺物は出土しておらず、帰属時期については不明である。また、柱列とした SA1・2 については狭小な調査区のほぼ中央で検出したため、調査区外に広がる掘立柱建物である可能性が高い。これらの主軸方向について、SA1 は座標北から 22° 東に、SA2 は 25° 東に振れている。なお、SA1 を構成する SP2 の掘方からは 12 世紀代と思われる東播系須恵器の皿と擂鉢が出土している（図 1）。小皿の底部はわずかに平高台をなし、回転糸切りの痕跡を残す。

以上みてきたように、今回の調査では飾磨郡条里地割に平行する SB1・SA1 とそれからごくわずかにずれる SA2 を確認した。集落構造等については周囲の調査成果とあわせた検討が必要であるが、ピットの密集度や遺物の出土量を勘案すると、遺構密度の低い、散村的な集落景観を想定することができよう。

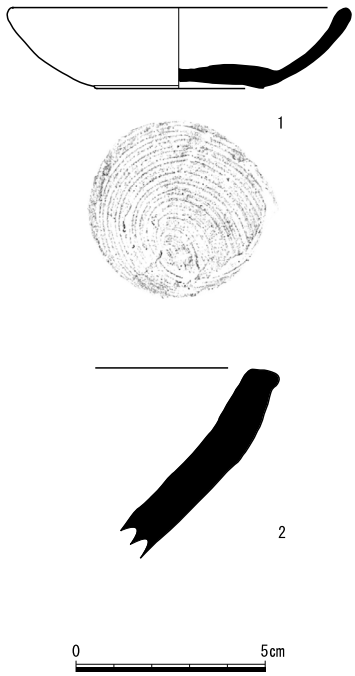
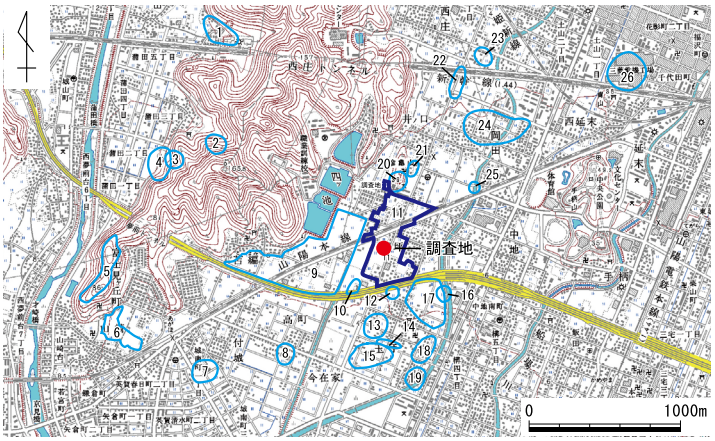


図 1　SP2 出土遺物（S=1:2）

【引用・参考文献】姫路市教育委員会文化部文化課編 2003『TSUBOHORI　平成 13 年度（2001）』姫路市教育委員会、姫路市埋蔵文化財センター編 2015『TSUBOHORI2015- 姫路市埋蔵文化財略報 -』姫路市教育委員会



1. 蒲田遺跡　2. 山所遺跡　3. 山所廃寺　4. 山所南遺跡　5. 山崎城跡　6. 村東遺跡　7. 辻垣内遺跡
8. 城田付城構跡　9. 池ノ下遺跡　10. 大浄口遺跡　**11. 豆田遺跡**　12. 辻堂遺跡　13. 鹿谷道遺跡
14. 出手遺跡　15. 横枕遺跡　16. 中ノ町遺跡　17. 大石橋遺跡　18. 東川遺跡　19. 石田遺跡
20. 法輪寺山遺跡　21. 村前遺跡　22. 町田遺跡　23. 土山遺跡　24. 八反長遺跡　25. 堂田遺跡
26. 千代田遺跡

図２　周辺の主な遺跡（S=1:50,000）

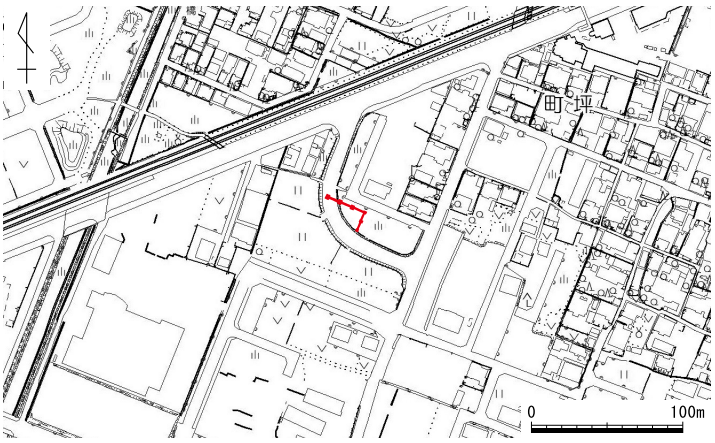


図３　調査地の位置（S=1:5,000）

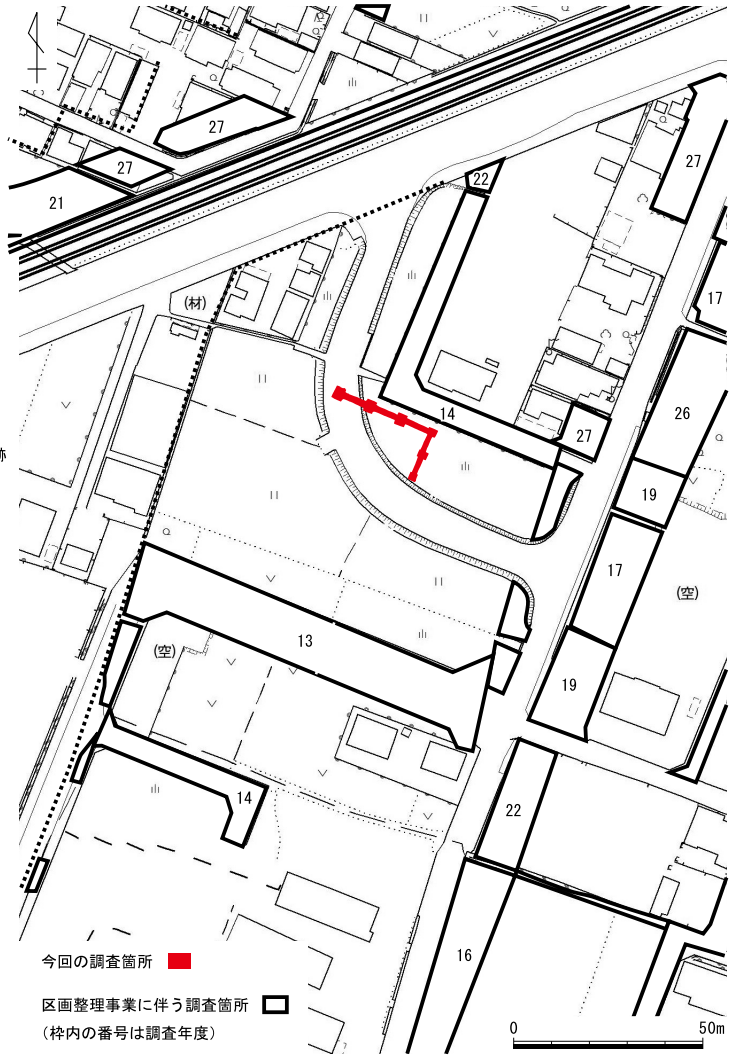
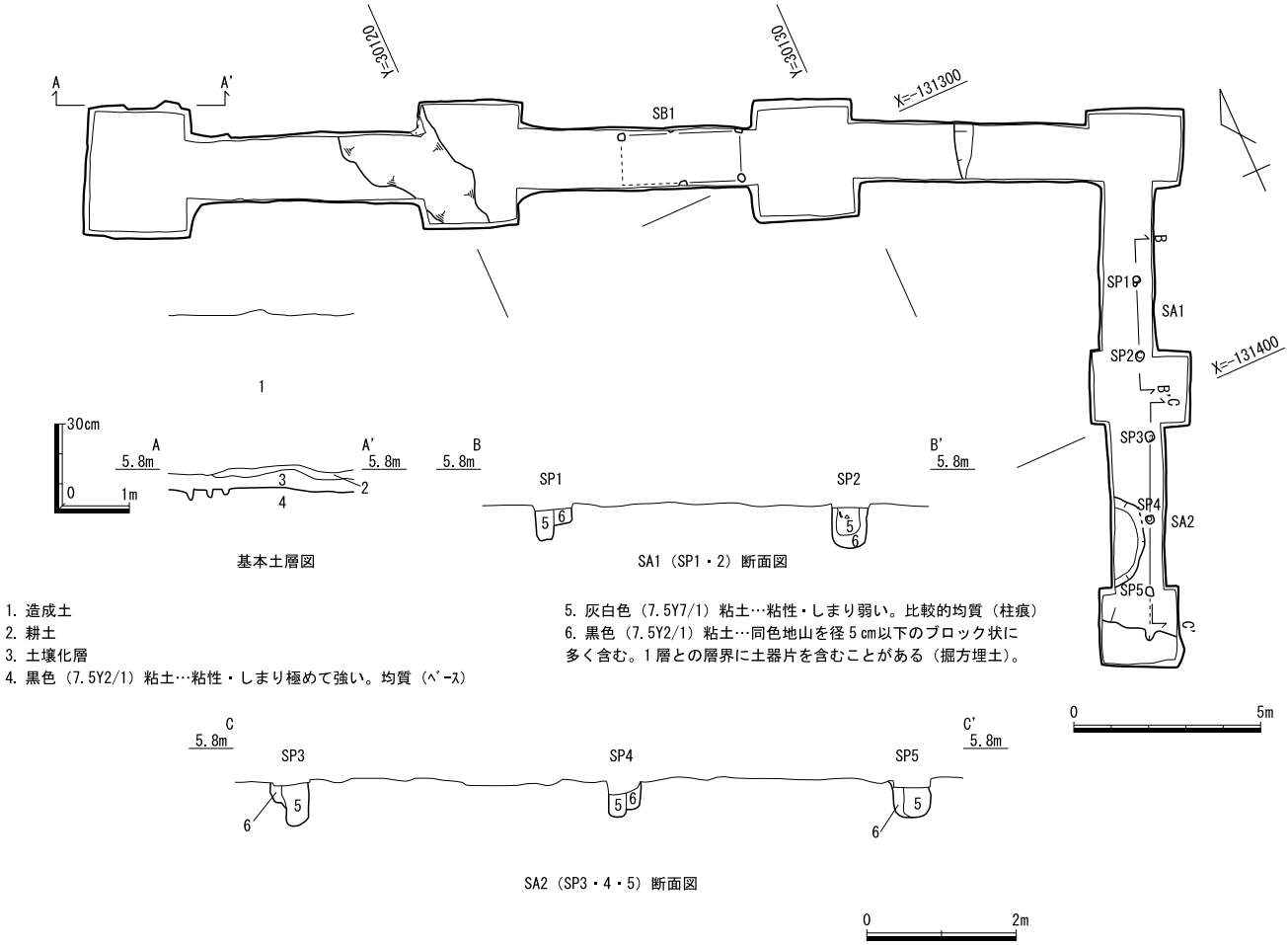


図４　今回の調査箇所と既往の調査箇所（S=1:2,000）



1. 造成土
2. 耕土
3. 土壌化層
4. 黒色（7.5Y2/1）粘土…粘性・しまり極めて強い。均質（ﾍﾞｰｽ）
5. 灰白色（7.5Y7/1）粘土…粘性・しまり弱い。比較的均質（柱痕）
6. 黒色（7.5Y2/1）粘土…同色地山を径５cm以下のブロック状に多く含む。１層との層界に土器片を含むことがある（掘方埋土）。

図５　調査区平・断面図（S=1:200、S=1:25・S=1:50）、ピット断面図（S=1:100）

写真１　調査区基本土層

写真２　SP2 土層断面

写真３　SP1・2,3～5 全景（北から）

報告書抄録

ふりがな	まめだいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	豆田遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第51集
編著者名	福井　優
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター
所在地	〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1　　TEL（079）252-3950
発行年月日	平成29年（2017年）3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
豆田遺跡（まめだいせき）	兵庫県姫路市（ひょうごけんひめじし）町坪（ちょうのつぼ）451他（ほか）	28201	020576	34°49′08″	134°39′36″	2016.7.20～2016.7.27	80㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺跡調査番号
豆田遺跡	集落跡	平安時代～鎌倉時代	柱穴	須恵器、土師器	20160170

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第51集

豆田遺跡発掘調査報告書

編　　集　姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1
発　　行　姫路市教育委員会
〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目1番地
発 行 日　平成29年（2017年）3月31日
印　　刷　株式会社デイリー印刷
〒671-0218　兵庫県姫路市飾東町庄57番地2